20周年記念特別号

Oct. 2019

静岡医療コミュニケーション研究会 **S・M・C** Shizuoka Medical Communication

SMC20周年記念講演会

患者と医療者のかけ橋をめざして　～模擬患者ってなんだろう～

静岡医療コミュニケーション研究会（SMC）が発足20周年を迎えたことを記念して、令和元年６月30日、静岡市保健所の共催の下に講演会を開催しました。開会にあたり、静岡市長田辺信宏様から寄せられたメッセージを、鈴木宏和保健衛生医療部長により代読という形でご披露いただきました。

第一部の講演では、先ず、静岡市保健所の加治正行所長が、医療相談窓口には、説明不足やコミュニケーション不足から生じる不安や不満が市民から寄せられている現状を紹介。行政の立場から見た医療コミュニケーションとSMCとの関わりをお話しくださいました。続いて、SMCを代表して鈴木崇代からSMCの活動について紹介、森田みつ子からは模擬患者を演じることのやりがい、研修者への思いなどを伝えました。

第二部の進行は藤崎和彦先生にお任せし、模擬医療面接を会場の皆さんに見ていただきました。癌を告知する医師役を担ってくださったのは、静岡市立静岡病院と静岡県立総合病院の研修医のお二人です。私たちは、対応の仕方で面談内容が異なることを目の当たりにしました。模擬医療面接を見るのは初めてだったという方が多く、それぞれに患者の立場、医師の立場で観ていらしたようです。参加者のアンケートでは模擬患者のリアリティーに圧倒された、このような研修方法があることを初めて知った、コミュニケーション力の大切さを知ったなどの意見がありました。

今回の講演会は、60名を超える参加者と共に医療コミュニケーションを考える貴重な場となりました。私たちは、これからも、患者さんやそのご家族と医療者のかけ橋となることを目指して活動を続けていきます。私たちの活動に興味を持っていただけたら幸いです。（鈴木）

静岡医療コミュニケーション研究会（SMC）20周年を迎え

SMCは、医療者と患者の相互理解を深めることを目的に、平成11年４月に発足しました。模擬患者（SP）の養成と派遣を通じてお互いのコミュニケーション能力の向上を目指す活動を行っているボランティア団体です。発足当初からの仲間や新加入の仲間と共に、あっという間に20年が経過しました。その間ずっとご指導を頂いてきた藤崎和彦先生とご支援を頂いた皆様に感謝申し上げます。

私がSPと初めて出会ったのは、藤崎和彦先生の「医療コミュニケーション　～SPを活用して～」という講演会でした。"医療コミュニケーション"って何？？　初めて聞く言葉！　通常の会話とは違うの？医療職であった私は大変興味を持ち、仲間と共にSMCの活動に参加しました。疾患だけに注目するのではなく、病気と闘っている患者に目を向けてもらいたいという思いがそこにありました。机上でのコミュニケーションは独学でも学べますが、自分自身のコミュニケーションを客観的に振り返ることは皆無であり、SPとのトレーニングを通してこそスキルを身に付けられると思います。

SMCの抱える課題は、模擬患者やファシリテーターの養成と長期にわたって活動できる人材を増やしていくことです。私たちは更なるレベルアップを目指していこうと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。（赤堀）

ＳＭＣ20周年おめでとうございます

岐阜大学医学教育開発研究センター　　藤崎　和彦

海外での模擬患者参加型医学教育は1960年代半ばから始まっているが、わが国での模擬患者の組織的養成は1992年になって、僕が現在の認定 NPO 法人ささえあい医療人権センター COML と一緒に模擬患者養成を始めた頃からと、30年近く遅れてのこととなる。その COML と僕に静岡市の保健所から模擬患者参加型セミナーの開催と模擬患者養成のお手伝いの依頼が来たのが20年前ということになる。僕自身は親の富士市吉原への転勤のため、中学高校と僕も静岡聖光学院でお世話になっていたので、懐かしい静岡からお声がかかったことで喜んで関わらせていただくこととなった。その当時は共用試験 OSCE が全国展開されるような時代が来るようなことは夢にもまだ考えておらず、ただ、医療界にとって非常に重要で効果的な教育法を広めたいという思いからのことであった。当初は、医師、研修医、歯科医師、看護師、薬剤師の卒後のスキルアップ教育という位置づけだったと思うが、2001年になって医学部歯学部で共用試験 OSCE の全国的な導入が決まり、2005年の正式実施までにトライアルで各大学は実施体制を作らなければいけないというなかで、浜松医大から SMC へも協力依頼が来ることになったのだと思う。最初のころは浜松医大の側の模擬患者に対する理解がもう一つであったり、担当教員や窓口が安定しなかったりと、SMC の皆さんも苦労が多かったのではあるが、それも今年で正式実施から共用試験 OSCE が15年目を迎える時代になってきた中で、良好なパートナーシップに変わっていっているように感じる。さらには2005年から６年制薬学教育が開始され2009年からその６年制薬学生の OSCE 実施をしなければいけないということになって、静岡県立大学とも協力体制ができるようになり、どんどん医療系学生の卒前教育部分へも活動が広がってきている。また、卒後の現場でのスキルアップ教育という意味でも、医療だけでなく介護の分野にも関わっておられて、医療安全学会で午前が僕、午後が SMC とご一緒して研修会を担当するようなことになったこともある。いずれにしろ20年前には夢にも想像していなかったような発展ぶりで、ここまでのご苦労を労いつつも、心から「20周年おめでとう」の言葉を贈りたいと思う。SMC がさらに次のステップに向けてますます進化していくことを祈念してお祝いの言葉にさせていただく。

静岡医療コミュニケーション研究会の設立20周年を祝して

静岡市保健所長　　加治　正行

静岡医療コミュニケーション研究会（SMC）がこのたび設立20周年を迎えられましたことに、心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

会員の皆様方には、20年という長きにわたって患者さんやご家族と医療従事者との相互理解を深めるための様々な活動に強い熱意をもって取り組まれ、安心・安全な医療の実現に貢献してこられましたことに深く敬意を表する次第です。

静岡市保健所は SMC の設立当初から深いご縁があり、平成11年に厚生省地域保健推進特別事業として会が発足された際には、当保健所内に事務局を置いて活動拠点としていただきました。その後ボランティア団体として独立されましたが、それ以降も保健所の重要な事業にご協力をいただいてきました。

静岡市保健所では「医療安全支援センター（ほっとはあと）」で医療に関する様々なご相談を受けていますが、そこで強く感じるのが患者さん・ご家族側と医療者側とのコミュニケーション・ギャップです。残念ながら両者のちょっとしたコミュニケーションの不足から相互不信、ひいては医療不信を招いている現状が少なからず見受けられます。

そこで当保健所では平成20年から SMC の全面的なご協力のもと、模擬患者さんに入っていただく「医療コミュニケーション研修会」を市内の医療機関等で毎年複数回開催しています。この研修会は参加者からいつもご好評をいただいており、医療現場でのより良いコミュニケーションの実現に寄与していると考えています。これもひとえに SMC の模擬患者さんの迫真の「演技」と的確な講評、ご指導の賜物と深く感謝しております。

これからも保健所の事業へのお力添えをお願いしますとともに、会の益々のご発展をお祈り申し上げております。

「長いお付き合い、そしてこれからも」

浜松医科大学医学部附属病院血液浄化療法部
臨床実習前 OSCE 運営委員会
加藤　明彦

このたびは発足20周年、おめでとうございます。SMC 研究会とのお付き合いは長く、浜松医大に OSCE 導入が計画された平成12年からのお付き合いとなりますので、今年で19年目を迎えます。最初は、平成13年３月24日（土）に臨床実習終了後の医学科５年生を対象とした OSCE からで、医療面接ステーションの模擬患者として６名の方に来院いただきました。平成17年度以降は、スチューデント・ドクターとして臨床実習を行うために、臨床実習前 OSCE が共用試験として必須となり、毎年10名以上の方に医療面接の模擬患者として協力いただいています。　令和２年からは、医学部卒業時の臨床能力を評価する臨床実習終了後 OSCE が正式実施されることとなり、昨年からはこのトライアルにも協力いただいています。

毎回、受験生に不利益を生じないよう同じ水準で演じていただくことで、本学学生のコミュニケーション能力の向上には大変役に立っております。この場を借りて、会員の皆様には深謝申し上げます。

最後に、長いお付き合いとなり、お互いが齢を重ね、体調に留意する年代となりました。これからも毎年、お元気な姿でお目にかかれることを楽しみにしております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

SP さんの涙（２つのＳ）

浜松医科大学医学部　臨床医学教育学講座
五十嵐　寛

SMC には2001年の医学科 OSCE（客観的臨床能力試験）でお世話になった事に始まり、現在では１年生新入生オリエンテーション、２年生医学概論ロールプレイ、臨床実習前後２回の OSCE など、学生が入学してから卒業までの様々な重要な場面でお世話になっており、本学にとって無くてはならない存在です。

OSCE は試験なので、担当 SP さんによる演技の違い（感情表現を含めた）を極力無くした（Standardize: 標準化）演技が必要です。一方、ロールプレイでは、優秀な医師になるための能力（心や態度）を涵養する事を目的とします。ロールプレイ中に SP さんが涙を流す事があり（Simulated：模擬）、「心を揺さぶるような経験」が医師のプロフェッショナリズムを育てる事を考えると、教科書だけの勉強だけだった低学年の学生にとっては得難い経験となります。指導する我々も SP さんの演技力（感情移入？）に圧倒される事が多々あります。本当に素晴らしい！

SMC の皆様にはいくら感謝しても感謝しきれないほど感謝しております。我々教員も良い医師を輩出するように頑張りますので、今後ともどうぞ宜しくお願いします。SMC 設立20周年、本当におめでとうございます。今後の更なるご発展を心より祈念しております。

静岡医療コミュニケーション研究会の20周年に際して

静岡県立大学薬学部・教授
賀川　義之

静岡医療コミュニケーション研究会様におかれましては、このたび20周年を迎えられたことをお慶び申し上げます。静岡県立大学薬学部では、2016年度の OSCE トライアル以来、OSCE における模擬患者において貴会にご指導・ご協力いただきまして厚く御礼申し上げます。平成18年度当時、本学にとって初回の OSCE トライアル資料を見ると、森田みつ子様、滝浪信恵様、扇みよ子様の名前が掲載されています。当時は私が運営責任者で、何もかもが手探りの状態で準備を進めていました。模擬患者についても学内での育成には時間と費用がかかることが課題でした。当時、静岡県立総合病院薬剤部の鈴木崇代先生から、貴会を紹介され、医学部 OSCE 等で経験を積まれた模擬患者の方々が協力していただけることになり安堵したことを憶えています。これまで本学の薬学教育における OSCE の質を高い水準で担保し、コミュニケーション能力に秀でた薬剤師を輩出できたことは、貴会のご尽力の賜物と考えています。これからも質の高い模擬患者は、患者中心の医療を支えていく上で必須です。静岡医療コミュニケーション研究会様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

静岡医療コミュニケーション研究会 20周年 おめでとうございます

静岡県立大学薬学部教授/健康支援センター長
山田　浩

静岡医療コミュニケーション研究会　20周年を迎え、誠におめでとうございます。本学大学院では毎年、CRC/CRA 養成講座「創薬育薬基礎・応用特論」を開いておりますが、その中で研究会の皆さんに治験の模擬患者（被験者）を2005（平成17）年から演じてもらい、学部生、大学院生のみならず CRC/CRA を目指す社会人のコミュニケーションスキルの向上に貢献していただいており大変感謝しております。研究会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

♥♥♥ 会員メッセージ ♥♥♥

SMC20周年に祝！
　発足当初は会員の意見が合わず、会の本来の目的と違うと思った事もありましたが、藤崎先生の熱心な指導 と、代表が大変な苦労をして今に至り、充実した会の運営が出来ています。気の合う仲間と、今後もコミュニケーション能力の向上を 目指し努力したいと思います。　山田峰子

　藤崎先生の講義を聞き患者の気持ちを知ろうと思い SMC に入った。コミュニケーションの重要さ、難しさを学んだ。又、人との繋がりと仲間との愉しさも学んだ。相手との会話に「分かってもらえるよう」「気づいてもらえるよう」さらに模擬患者を窮めていきたい。　気田千恵美

　草創期から携わって20年!!公私共に色々な事があったけど、私のような人間が20年も活動出来たのは、素敵な仲間に支えられたお陰！沢山の学びを与えてくれた SMC 、そして仲間に出会えた事は私の宝物です。今までもこれからもずっとありがとう！　横山美奈江

　SMC のユニークな仲間と20年、とてもやりがいがある活動でした。患者さんや家族の方の思いを『良好なコミュニケーション』の中で知ることが治癒力（治る力）を高める為に必要なことだと思うからです。今後も微力ながら継続したいと思います。　小澤久代

　十周年記念に伊東へ行った日から、もう十年とは。医学教育の一端のお手伝いが出来有意義でした。主婦という社会参加しにくい立場から見ると、貴重な経験が出来たのはメンバーの協力・努力があったからです。いかに若い会員を増やし継続していくかがこれからの課題。　扇みよ子

　模擬患者としてお手伝いをさせていただいて、もう16年になります。言葉や身振りによって人と人との交流をスムーズにするコミュニケーションは日常生活においても重要で、とても良い経験をさせて頂きました。この会と共に自分も成長出来たらと思います。　齋藤はるみ

　私は途中参加させていただいたのですが、創生期からの皆さんのご苦労は大変なものであったと伺っています。模擬患者、ファシリテーター、オスキー、その都度反省を繰り返しながらの日々です。すべてが自分の振り返りですので相手の言葉、自分の言葉の一つひとつが、勉強になります。この経験が活動を続けられる動機付けだと思っています。　関　薫

　ある研修会で見た医療面接のビデオでの患者役の演技に感動して、その日のうちにホームページから入会し、２年になります。積極的で研究熱心な先輩方と活動することは、とても良い刺激となります。これからもライフワークとして続けていきたいと思います。　佐久間恵

　研修で見た DVD がきっかけで参加しました。会員の皆さんの熱い思いを参加する度に感じ、付いていくのがやっとの状態です。少しずつ面白さも感じており、出来る範囲でお手伝い出来ればと思っています。まだまだ学ぶ事も必要ですよね。頑張ります！　森田美子

　薬剤師のコミュニケーション能力の向上に少しでも携われたら・・と思い、活動を始めて20年が過ぎました。いろいろな事が思い出されますが、一番多くの事を学んだのは私自身でしょう。社会から期待される SMC として活動を続けていきたいと思います。　鈴木崇代

　20年医療面接に関わるなかで、病院だけでなくいくつかの大学から誘われているうちに、東京大学まで定期的に行くようになって、続けることの意味が見えてきましたね。皆さんとしているこの活動は人の役に立っているんですね。　袴田康弘

　自分の思いを言葉にして相手に的確に伝えるのは難しい。その体験が出来、学べるのが SMC 活動の奥深さだと思います。今後模擬患者を続けるには自分の記憶力との戦いですね。あと何年出来るか！？　赤堀紀子

　看護師、薬剤師、医師など多くの“ プロフェッショナル”から、その職種の特性や使命などを学ばせていただいております。とても興味深いですし、勉強になります！　なんといっても“ 人”として魅力がたまりません!!　いつまでも歯に衣着せぬ関係を。　上藤美紀代

　「おもしろそう」。気軽に始めて５年。楽しくもあり、難しくもあり。やればやるほどコミュニケーションの奥深さ、己の未熟さを感じます。20年も続けてくださった先輩方に感謝。活動を理解し後押ししてくださる保健所にも感謝。信じて依頼してくださる皆様へも感謝、です。　春日広美

　個人的な経験から、より良き医療のためのお手伝いができればと思い、入会しました。医療場面に限らず、コミュニケーションの大切さを、日々学んでいます。メンバーに恵まれ、楽しく活動ができることに感謝しています。　柳沢育代

　医療従事者としてなにか教育に貢献したいという思いのもと仲間入りさせてもらいましたが、経験する度自分自身まだまだ勉強を要する身だと感じることが多いです。ともあれ、楽しく明るい雰囲気のまま会が続くこと願います。祝20周年！　秋本知美

　外国人患者さんと医療者のコミュニケーションに関心をもち、入会しました。そして、模擬患者の活動を通じて、あらためて患者さんとのコミュニケーションのとり方を学んでいます。また先輩方の演技力は見事でいつも感心しています。　濱井妙子

　SMC の模擬患者を使った看護研修で感動的な体験をしました。課題は相談があるという患者への対応でした。事例から問題と対策を議論しロールプレイが始まりました。患者の相談とは看護師への苦情でした。想定外の展開に緊張感は高まり真剣勝負の研修となりました。この研修参加が動機となり、今年４月 SMC に入会させて頂きました。　玉井ヨネ

　勤務先の１枚の研修案内に惹かれ参加してから早20年、こんなに長く活動していることが夢のように感じます。どうしたら患者さんの気持ちが解るのだろうと思ったのが入会のきっかけ。実際に模擬患者を演じることで患者側の気持ちが少しだけ解ったような気がします。活動を通じて出逢ったメンバーや専門職の人々は貴重な私の財産になりました。活動の目的、それは一貫して一人でも多くの医療従事者に患者さんの気持ちに気がついて欲しいことです。その為にもより本物に近い模擬患者の育成、それが今後の自分の責務かと考えています。　森田みつ子

　SMC にご興味があれば、どなたでもご参加いただけます。是非あなたもご一緒に活動してみませんか。
お問い合わせ、お待ちしております。

発行：静岡医療コミュニケーション研究会　　印刷：㈲ 橋本印刷所